

# 第10回

# 交通運輸技術フォーラム

— 交通分野が切り拓くグリーン社会の実現と  
GX技術の最新動向 —

日時 令和8年3月3日(火) 14:00~17:05

場所 Tokyo Innovation Base 2階 Stage+Room  
(東京都千代田区丸の内3-8-3)

定員 450名(現地最大200名) 事前申し込み 2月27日(金) 17:00まで  
オンラインでも同時配信 ※定員に達した時点で申し込みを締め切らせていただきます

参加費  
無料

主催：国土交通省

14:00~14:05	冒頭挨拶	国土交通省大臣官房 技術総括審議官 中村 晃之
14:05~14:25	水素ハイブリッド電車HYBARIの開発	東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本研究開発センター 環境技術研究所 水野 司
14:25~14:45	いすゞ自動車のCN商用車マルチパスウェイに向けた取り組み	いすゞ自動車株式会社 CN戦略部門 CN技術統括部 宇佐美 孝忠
14:45~15:05	航空事業における脱炭素戦略	全日本空輸株式会社 経営戦略室 企画部 GXチーム 飛岡 美弥
15:05~15:25	SAFによる航空脱炭素の挑戦	日本航空株式会社 経営企画本部 経営戦略部 エアライン事業戦略グループ 西尾 真治
15:25~15:35	休憩(10分)	
15:35~15:50	港湾分野における水素を燃料とする荷役機械導入に向けた取組	国土交通省 港湾局 産業港湾課 課長補佐 後藤 嘉雄
15:50~16:05	GXの実現に向けた国土交通省における交通運輸分野の取組	国土交通省 総合政策局 環境政策課 課長補佐 石島 彬仁
16:05~16:15	休憩(10分)	
16:15~16:30	船舶におけるアンモニア燃料の用途拡大に関する研究	株式会社三井E&S 服部 望
16:30~16:45	船舶塗装の生産性を高速・低ロスで革新する高粘度液体オンデマンド塗装技術の実用化	東京農工大学 田川 義之
16:45~17:00	放射性物質輸送における遮蔽・線量評価基盤の整備	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 鎌田 創
17:00~17:05	交通運輸技術開発推進制度の紹介	事務局

今年度は会場内(Room)にてブース展示を実施します

参加申し込み方法

下記のURLから申込みフォームにアクセスの上、お申し込みください。  
<https://forms.gle/4msy2iKUGBD5Y9H18>



## 第1部 | 基調講演

14:05~14:25

### 水素ハイブリッド電車 HYBARIの開発



東日本旅客鉄道株式会社  
JR東日本研究開発センター  
環境技術研究所 水野 司

JR東日本では、2050年度までにCO2排出量「実質ゼロ」をめざす取組みの一環として、燃料電池装置と主回路蓄電池を動力源とする水素ハイブリッド電車FV-E991系「HYBARI」を開発した。今回は、HYBARIの開発経緯や機器の構成の紹介と共に、ハイブリッドシステムや水素システムなどの機能等を確認するために2022年3月より開始した実証試験の概要について紹介する。

14:25~14:45

### いすゞ自動車のCN商用車 マルチパスウェイに向けた 取り組み



いすゞ自動車株式会社  
CN戦略部門 CN技術統括部  
宇佐美 孝忠

いすゞ自動車は2050年CN化の実現に向けて、低炭素化・カーボンニュートラル商用車の実証、実装を多様な動力源の「マルチパスウェイ」で推進している。本講演ではその具体例を中心にいすゞの取組みをお伝えする。

14:45~15:05

### 航空事業における脱炭素戦略



全日本空輸株式会社  
経営戦略室 企画部 GXチーム  
飛岡 美弥

ANAグループは本年1月に2026-2028年度中期経営戦略を発表した。航空事業におけるGX戦略の概要および、運航における燃料節減や環境価値の販売といった、2050年CO2排出量実質ゼロの鍵となる取組みについて紹介する。

15:05~15:25

### SAFによる航空脱炭素の挑戦



日本航空株式会社  
経営企画本部 経営戦略本部  
エアライン事業戦略グループ  
西尾 真治

航空の脱炭素に向けた重要な手段の1つであるSAF（サフ）。SAFの認知度向上のために家庭系廃食油の回収の仕組みを社会実装しようとしている航空会社の取り組みや、国内の森林資源を原料とするSAFの製造に向けた挑戦についてお伝えする。

## 第2部 | 国土交通省の取組紹介

15:35~15:50

### 港湾分野における水素を燃料とする荷役機械導入に向けた取組

国土交通省 港湾局 産業港湾課 課長補佐 後藤 嘉雄

港湾におけるGX推進に資する水素利活用の拡大を目的に、世界主要国（米国、スペイン等）でも検討が進められている水素燃料を利用した港湾荷役機械の導入に向け、国土交通省が取り組んでいる内容について紹介する。

15:50~16:05

### GXの実現に向けた国土交通省における交通運輸分野の取組

国土交通省 総合政策局 環境政策課 課長補佐 石島 彬仁

我が国の二酸化炭素排出量の約2割を占める運輸部門について、国土交通省が取り組むGX政策の現状と今後の方針を、政府全体の環境政策の動向を踏まえつつ紹介する。

## 第3部 | 交通運輸技術開発推進制度 研究成果発表

16:15~16:30

### 船舶におけるアンモニア燃料の用途拡大に関する研究

株式会社三井E&S 服部 望

アンモニアは船舶のゼロエミ燃料として有力な候補であり、周辺機器への応用も期待される。中でもアンモニアから水素を製造する技術は船舶に限らず様々な用途に応用可能であり、アンモニア改質装置開発に取り組んだ。

16:30~16:45

### 船舶塗装の生産性を高速・低ロスで革新する高粘度液体オンデマンド塗装技術の実用化

東京農工大学 田川 義之

従来の船舶塗装は、人手による希釈塗料を用いた有機溶剤入りスプレー塗装が主流である。本発表では、高粘度塗料をオンデマンドに吐出することで、有機溶剤レスかつ高塗着率（飛散なし）を両立し、船舶塗装の生産性および労務・環境性能を同時に向上させる新技術の実用化研究と、その社会実装に向けた取り組みについて紹介する。

16:45~17:00

### 放射性物質輸送における遮蔽・線量評価基盤の整備

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 鎌田 創

放射性物質輸送の安全確保に向け、遮蔽設計を支える評価基盤の整備を進めており、計算用データの整備と実験・詳細計算による検証を通じて、従来の評価方法の妥当性と適用範囲を体系的に整理している。

## ○交通運輸技術開発推進制度 過去採択企業 ブース展示

過去に交通運輸技術開発推進制度に採択された企業等より、ブース展示をいただきます。

場所：フォーラム講演会場横（Tokyo Innovation Base 2階 Room）

出展予定団体：株式会社2DC、JFEエンジニアリング株式会社、公益財団法人 鉄道総合技術研究所 等